

# 令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における 北九州市立 柄杓田 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和6年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

## 1. 調査の目的

(1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

(2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

## 2. 調査内容

### (1) 実技に関する調査

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

### (2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

※ 本校の5年生は単学級ですので、個人が特定されないことがないよう、公表の方法について配慮しています。

## 3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市の実技調査の結果

<男子>

| 本年度の結果 | 握力    | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅とび  | ソフトボール投げ | 体力合計点 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-----------|------|--------|----------|-------|
| 全国     | 16.01 | 19.19 | 33.79 | 40.66 | 46.90     | 9.50 | 150.42 | 20.75    | 52.53 |

|    |       |       |       |       |       |      |        |       |       |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|-------|-------|
| 本市 | 15.98 | 19.39 | 34.42 | 40.27 | 49.36 | 9.54 | 150.13 | 21.81 | 53.10 |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|-------|-------|

#### <女子>

| 本年度の結果 | 握力    | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅とび  | ソフトボール投げ | 体力合計点 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-----------|------|--------|----------|-------|
| 全国     | 15.77 | 18.16 | 38.19 | 38.70 | 36.59     | 9.77 | 143.13 | 13.15    | 53.92 |
| 本市     | 15.88 | 18.39 | 38.51 | 38.13 | 38.67     | 9.79 | 142.58 | 13.44    | 54.32 |

#### 4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

##### 質問紙調査の結果分析

本校の児童は、「体育の授業は楽しい」との設問に対し、「とても楽しい」、「楽しい」と回答した児童の割合が約 8 割にのぼり、多くの児童が運動やスポーツに親しんでいることが分かる。一方、「運動やスポーツをすることが好きか」との設問に対し、肯定的な回答をした児童とそうではない児童とで運動に対する意欲の差があることがわかった。

また、運動習慣の定着という観点では、学校外での運動機会に差があることが課題となる。運動が好きな児童が多い一方で、日常的に運動をする時間を確保できていない児童もいる可能性がある。今後は、家庭や地域と連携しながら、学校外でも継続的に運動習慣を身につけられるような取組を推進していく必要がある。

#### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

##### ① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

本校では、北九州市体力向上プログラムを活用し、安全に配慮した準備運動を実施している。主運動では、児童の興味や体力レベルに応じた運動ゲームや補助運動を取り入れ、運動技能や運動の楽しさを高めている。その結果、体育の授業への意欲が向上し、多くの児童が積極的に参加している。一方で、運動能力の差により活動を十分に楽しめない児童もあり、今後は個別支援を強化する。引き続き、安全で楽しい体育の授業を提供し、運動習慣の定着を図る。

##### ② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

本校では、児童の運動習慣の定着を図るため、毎週水曜日の 8:35~8:50 に「体力アップタイム」を実施している。全校でランニングや運動ゲームに取り組むことで、柔軟性や心肺機能を高め、脳の活性化や気分の向上につなげている。また、学校全体の一体感や活気の向上にも貢献している。

長期休業期間には、家庭での運動習慣の継続を目的とした「運動チャレンジカード」を配布し、児童が運動内容を記録し、休業明けに担任が確認・賞賛する取組を行っている。さらに、学校便りや学級通信を活用し、保護者に家庭での運動の重要性を伝え、協力を呼びかけている。